

# 生徒指導便り

令和2年 10月

猛暑だった夏も過ぎ去り、朝夕はだいぶ涼しくなってきました。体調などは崩していませんでしょうか。朝夕と昼の気温差が大きくなる時期です。衣類での温度調節など体調管理に努めてください。

さて、30日(金)に地元視察研修を実施します。今年度になって初めての校外での学習になります。楽しみにしている生徒の皆さんも多いことでしょう。その中で、午後から人吉旅館様でボランティアを行う予定にしています。そこで今回はボランティアについて触れたいと思います。

熊本県社会福祉協議会に掲載されている。災害ボランティア活動中の10の心構え(抜粋)をあげます。今回の地元視察研修の中では直接関係ない内容もありますが、今後、皆さんが災害ボランティア活動をする際の参考にしてください。

① 被災地での活動は、現地の災害ボランティアセンターの指示に従って行動してください。

② 被災者に不信感を与えないように、災害ボランティアセンターで用意された名札をつけてください。また、活動現場に到着したら、身分証などを提示しながらの自己紹介をおすすめします。

③ 休憩時間には、被災者と一緒に活動するボランティアに、出身地の歴史や伝統、文化、方言、暮らしぶり、自分の趣味などを紹介して、「コミュニケーションを深めましょう。連帯感や友情が深まり、「絆」が生まれます。

④ 無理をせず、こまめに休憩や水分補給をしましょう。熱中症に注意してください。水分補給は20〜30分おきにするなど心がけてください。

⑤ 作業に危険を感じた場合は、「できません」「無理です」と

ハッキリと断りましょう。

⑥ ボランティア活動には、「約束を守る」というルールがあります。安易に「できません」「やります」と約束せず、少し無理する場合や、わからないことがあれば、速やかに災害ボランティアセンターに問い合わせてください。

⑦ ボランティアが頑張っているのに、疲れているのに一緒に無理して作業を手伝おうとする被災者もおられます。「私たちボランティアが来ている時くらいは、ゆっくり休んでください。」と気配りしましょう。

⑧ 被災した家屋の前でのボランティアの集合写真の撮影や、被災者との記念撮影をお願いする行為は、被災者の心情を考慮して絶対にしないでください。

汚れたり壊れたりしている被災者宅の品々は、「ゴミやガシキではなく、被災者にとっては『思い出の品』です。」「捨てていいですか?」「どうしまししょうか?」「ではなく『洗って、とっておきましょうか?』と尋ねましょう。

⑨ 「ゴミ袋を携行し、「ゴミは必ず持ち帰ってください。被災地や被災者宅は、災害ゴミであふれかえっています。これ以上のゴミを被災地に増やさないことも大事なエチケットです。

⑩ 災害ボランティアセンターに行っても作業がない場合もあります。作業がないからといって怒らないでください。「待つこともボランティアなのです。

心構えの⑦・⑧にあるように相手の立場にたって行動することが大切です。30日の地域視察研修では2時間程度と少しの時間ですが、地域に貢献できるように生徒・先生方ともに頑張るましょう。